



切り拓く！

未来につなぐ政治

わたくしはこれまで、地域に育てていただき、
企業の現場で働き、家庭を支え、
そして県議会議員として、
ふるさと徳島の暮らしのすぐそばで歩んできました。

その中で、片時も忘れることがなかったのは、
まじめに働き、懸命に生きている人たちが
正当に評価され、
安心して暮らせる社会をつくりたい、という思い。

今、政治に求められているのは、
目の前の課題に対応するだけでなく、
20年、30年先の日本のかたちを描き、
その中で、地方がどう役割を果たしていくのかを
明確に示すことだと考えています。

だからこそ必要なのは、
同じ景色を繰り返す政治ではなく、
本当の現場を知り、人々の暮らしを知る政治。
これまで積み重ねてきたものを大切にしながら、
変えるべきところは変え、
責任をもって前に進める——
そんな「つなぐ政治」だと、私は考えます。

ふるさと徳島に根を張り、
みなさんの声を、国の決定へと繋げていく。
私は経験に裏打ちされた現実感と、
新しい時代へ踏み出す覚悟をもって、
日本の未来に責任を持つ
政治を実行したい。

徳島から、日本の未来へ——

「新しい風」を起こし、
「新たな時代」を切り拓いて
まいります。

北島一人

政策01 地域の仕事を守り抜く

～「続けたい人が、続けられる国」へ～

中小・小規模事業者は、地域経済の礎。
しかし今、後継者不足やコスト増で、「続けたくても続けられない」現実があります。

- 物価高と賃上げに耐えられる実効ある支援
- 事業承継・M&Aを当たり前の選択肢に
- 挑戦する人が損をしない環境づくり で、

「地方で商売が続けられる国」へ転換します。

政策02 食料安全保障の最前線・徳島

～農業を“守る対象”から“稼ぐ戦略”へ～

食料は、輸入に頼れば安泰という時代を終えました。
農業は、国の生存を支える安全保障そのもの。

- 合意に基づく農地集積・集約
- 若者や移住者が定着する就農支援
- スマート農業で省力化と高付加価値化 で、

「食べていける農業」を国策として実現します。

政策03 命を救い、地域を残す防災

～“絵に描いた防災”は、もうやらない～

災害は想定外ではありません。南海トラフ巨大地震は、すでに現実の危機。

- 確実に機能するインフラ整備
- 発災直後から復旧まで切れ目ない備え
- 被災後も地域が消えない仕組み で、

「起きてから考える防災」から

「助かり、立ち直れる防災」へ転換します。

政策04 支え合える社会を当たり前

～特別扱いではなく、普通に暮らせる社会へ～

誰もが支える側にも、支えられる側にもなります。
大切なのは、特別扱いではなく、当たり前に暮らせる仕組み。

- 高齢者・障がい者と家族に寄り添う制度
- 災害時や感染症時の弱者支援
- 地域で支える共助の仕組み で、「誰一人取り残さない社会」を実現します。

政策05 未来は、場所で決めさせない

～教育と子育ては、国家の責任～

教育は、最も確実な未来への投資。地方にいてだけで選択肢が狭まる現実を放置しません。

- 保育・子育て支援の底上げ
- 小規模校・中山間地域の学びを守る
- ICTで教育格差を是正 で、

生まれた場所で「人生を決めさせない」

教育環境を整備します。

政策06 平和は、日常の中で守る

～見えない危機から目をそらさない～

脅威は、軍事だけではなく。
経済、食料、エネルギー、サイバー … 安全保障は、暮らしの問題です。

- 経済・食料・エネルギーの自立
- 現実的な防衛力と抑止力
- サイバー対策と産業防衛 で、

「備えていなかった」を

繰り返さない国家をつくります。

政策07 声が届く政治に、 取り戻す

～政治を、遠い存在にしない～

まじめに働いても報われず、声を上げない人ほど取り残される。
そんな政治に、私は違和感を覚えてきました。

- 現場の声を国に直結させ
- 制度を机上論から現場基準へ
- 変わったと実感できる政治 で、

政治を、もう一度「自分ごと」に戻します。